

## 第 54 回富山県総合雪対策推進会議 議事概要

1 日 時 令和 7 年 11 月 13 日 (木) 10:00~11:30

2 場 所 富山県防災危機管理センター 5 階会議室

3 出 席 者

(委 員) 庵会長、北岡委員、田中委員、大坪委員、下坂委員、中村委員、  
府金委員、石原委員（代理）、伍嶋委員、森島委員（代理）、  
村椿委員（代理）、 笹島委員（代理）、有岡委員 計 13 名

(事務局) 杉田生活環境文化部長、中林危機管理局長、金谷土木部長、関係課長 他

4 主な議事 今冬の気象予測について

(富山地方気象台)

令和 6 年度富山県総合雪対策の実績について (県民生活課)

令和 7 年度富山県総合雪対策実施計画（案）について (県民生活課)

災害級の大雪時におけるタイムラインについて (防災課)

令和 7 年度富山県道路除雪計画について (道路課)

5 議事概要 (委員から出された主な意見)

- 雪を楽しむ予算を今年度増額したのは、どういう趣旨か。雪は被害の方に注目されることが多いが、雪対策の中には雪を楽しむということもあり、県民のウェルビーイングを高める意味合いで県も少なからず考えているということであろうと考える。
- 資料の中で、非常に大変な除雪のときには、石川県と富山県の県境は封鎖する状況になるという理解でよいか。また、物流業者にはそういう状況にするということを、基本的に事前周知するのか。
- 鉄道事業者として 12 月 1 日からの冬季、除雪保守用車の準備訓練、雪害対策ダイヤや各域の除雪準備を進めている。積雪と降雪予想をもとにした翌日の運行判断、計画運休除雪を遅くても前日の夕方までに判断し情報提供する。また昨今では、J P C Z 等のますます激甚化する気象災害気象急変の対策の検討を深度化する必要性を認識しており、今年度からリアルタイムに線路の積雪状況を把握するため、各線区に積雪カメラを設置し積雪状況を確認するように対策していく。
- 鉄道事業者として、気象庁からの情報等をしっかりと把握し、安全運航を最優先し、県民の皆様の移動の足を確保していく。大型の排雪除雪車 2 台を導入し、弾力的な除雪に取り組む。  
タイムラインに基づき、気象情報の迅速かつ適切な把握に努め、注意報が出た段階で運行計画を検討して、計画運休を含めて、しっかりと対応していきたい。運行の再開は、安全が最優先になるが、支障のない形でできる限り早く、計画的な運行再開に努めていきたい。昨今は短期的にかつ集中的に、或いは局所的に雪が降るという可能性もあり、区域ごとの降雪状況にはしっかりと注意をし、利用者の皆様に事前に情報提供していきたい。
- 高速道路では昨年と同様に人命を最優先にということで、大規模な車両滞留は徹底的に排除することを前提とし、大雪の予報が出たときには、安全・交通の確保が困難な場合は、予防的通行止め

について関係機関と調整しながら考えていく。予防的通行止めではないときに、事故などで通行止めになった場合も、早期に開放ができるように、レッカーの待機など考えながら対策を進めていきたい。また情報提供としてホームページ、SNS、XとかLINE、ラジオなどで情報提供をしていきたいと思っており確認をお願いしたい。

- 人命優先タイムラインをしっかりと作り、大雪時いかにやり過ごし、被害を少なくし、復旧を早くするという方針は大変評価したい。これをやるためにあらゆる階層での共通理解が大前提になる。関係機関だけではなく住民、企業の方みんなが「それが当たり前だね」と考えることが大事。
- 倒木対策は結構見過ごす場合があるがしっかりと取組みとして入れてある。倒木は道路を塞ぐだけのみならず停電も広域停電になる。こういった取組みも引き続きよろしくお願ひしたい。
- タイムラインを作つて、国の大きな流れとして、計画的に通行止めをしたり、鉄道を事前に止めたり、被害を少なくて、復旧を早くするということは広域に交通を一旦止めるという流れに今なつてきている。このタイムライン中では県内の情報共有だと、そういったところをしっかりと書かれているが、広域化は、例えば隣県との情報共有が出てくるかと思うがその状況はどうか。
- 資料5にある項目1について、自分は冬場歩いて通勤しているが押しボタンの信号機が押せないような状況の積雪があり、何日も除雪されてなかつた。除雪率は昨年度と比較して増加しているのか減っているのか、どういうふうに増えていくのか。人手不足や予算の状況もあるだろうが住民のご意見を聞いて、限りなく100%に近づければいい。
- 富山県には自治振興会が大体320弱あり、11月下旬から12月頭にかけて、各校下の除排雪協議会を開いている。自治振興会も協力をしながら、公共施設、子供たちの登下校の安全確保・通学路の安全確保、生活道路の確保、住民が大雪で困らないようにしているが、ごみステーションで、場所がわからなくなったり、或いは車道にはみ出たりして、子供たちの登下校に大変難しくなつてゐるところもある。
- 校下住民の協力をいただき住みよいまちづくりに貢献しているが、最近は行政から、排雪の雪置き場の確保の協力依頼が来ており、公園、或いは学校のグラウンド等に、排雪できるかどうか、各団体に今、協力依頼をしている。私たち自治振興会はボランティアとして、一生懸命、住民の住みよさを目指して頑張っているところであり、ご協力をお願いしたい。
- 高齢者の生活を守つていかなければいけない。雪が降ると、高齢者が外に出なくなり活動できず動けなくなるということがあり、デイサービスや施設の送迎は欠かせない。ヘルパーさんの訪問で1時間の訪問で車をどこにとめておいていいのかわからずリュックを背負つて歩いて訪問をすることもある。送迎車が車を停める場所がなく、通行の妨げになるというところで迷惑をかけることは承知しているが、ご了解をいただきたい。
- 道路や歩道が綺麗に除雪してあるが、交差点に積まれている雪を乗り越えて横断歩道に行かなければいけないところがある。スコップが置いてある交差点があるがボランティアや通行者のお気持ち次第であり、高齢者の方は雪があると外出が億劫になるため、皆さんのご協力が必要ではないかと感じている。

- 去年ヘルパーの方から話があったが、道路のここまで綺麗に除雪されているがその先がされていないという箇所があつて、そこから先に行けず、どこを迂回すればいいかわからないということがあつた。極力、道が繋がるよう時間帯を組んでいただきたい。
- 地域の方の声を聞いてみると、高齢化した地域で雪の心配の声が聞かれる。県政モニターアンケート結果でも、歩道除雪車道除雪の充実と並び高齢者世帯の生活支援体制が重要とされている。雪国としては通常の生活ができる体制を作っていくことが大事だが、車を使うには車から雪を融かすところもネックになる。このため例えば福祉車両を利用される方へのカーポートを作るときの助成があればどうか。高齢者の方や障害をお持ちの方は外に出ると体調を崩しがちで、その家族が看病看護するため仕事も休むと経済の停滞にも繋がる恐れがあり、ウェルビーイングを高めるためにもカーポートの助成を検討願いたい。
- 地域で助け合うことが大事。一人暮らしの高齢者では家の前の雪を融かすのも大変で、自主防災組織も増えつつあるが、行政の方から地域の対策として「お願いします」という発信があると、地域での話し合いのきっかけになるのではないか。
- 子供たちの登下校時、まだ雪があることがある。子供たちは雪で遊んでしまうことがあるので道路から出てしまうことがある、除雪した雪の置き場の対策をしていただきたい。
- 学校の雪も、先生たちが結構苦労して除雪してくださっているので、雪対策の中に入れていただけるとよい。
- 身近な自分の経験として言うが除雪したあとの雪はどうするのか。夜中に道を除雪されているが、日中車を出して運転していると交差点では道よりも雪が積んである。
- 市町村としては、除雪を担当する業者とオペレーターの確保が難しくなってきてるので、除雪体制を組むことには困難が増している。県のワンオペ除雪の試行は非常にいいことで進めていただきたいが、どこまで広がれば本格化するのか、目途があるのか。市町村でもある程度確立されたならワンオペ化をしていきたいと考えており、目途が立てば市町村の方への拡大・支援をお願いしたい。
- 道路の維持管理で県と市町村が共同で実施するトライアルが始まるが、道路除雪はそれぞれの管理者が行う原則であるにしても、県と市町村が共同で面として除雪体制を組むことを検討していただきたい。
- 除雪業者からの意見で、高齢化で人が減り、オペレーターが減ること、また除雪機械、重機の維持が大変で撤退を考えているという声がある。市町村でも、どういった支援ができるかという部分は検討していかなければいけないが、免許の取得や機械維持に向けての支援を検討いただきたい。